

〈研究ノート〉

映画の台詞に基づく現代ブラジル民衆言語研究

— セルタネージョ（奥地住人）のポルトガル語 —

住 田 育 法

要 旨

Minha hipótese é a seguinte: os sotaques dos sertanejos do nordeste e do sudeste são notados nas ausências dos sons de “s” e “r” nos finais dos vocábulos, em especial nas falas das camadas populares. No entanto, nos sotaques dos moradores da favela carioca não são notadas estas distorções. A causa deste fenômeno poderia ser tanto a influência dos portugueses no Rio de Janeiro, como a consciência e orgulho dos moradores da ex-capital para falar português correto. Recentemente, ficou mais fácil observar as falas populares por conta das legendas em português disponíveis na autoração dos DVDs dos filmes brasileiros. Por exemplo, as personagens representadas por atores amadores no filme “Cidade de Deus” auxilia muito no conhecimento da verdadeira linguagem popular. Outro exemplo é o personagem Pacu do filme “Abril despedaçado”, pois o ator mostra bem o sotaque típico do sertanejo. Ademais, quando o diretor aproveita uma locação real em seu filme, naturalmente ajuda a mostrar os fenômenos do linguajar regional.

Foram analisados, também, documentários e discursos de fala, onde o atual presidente do país deixa transparecer sua origem humilde. O presidente Lula através de seu sotaque, e mesmo alguns erros gramaticais, recebe de um lado a crítica das elites letradas e de outro a confiança e a simpatia das camadas mais pobres da nação brasileira. A maioria da população brasileira, que o elegeu como seu representante. Através desses filmes me foi possível perceber as semelhanças, e as diferenças, dos linguajares no sertão brasileiro.

キーワード：民衆言語，北東部，南東部，農村と都会，セルタネージョ，カイピリズモ，カリオカ，リオのファヴェーラ住人，映画の台詞

はじめに

テレビやインターネットで簡単に入手できるブラジルのルラ大統領のスピーチを分析すると、そのポルトガル語に、北東部の民衆言語の発音を観察できる。つまり、名詞の複数形の語尾 s や、不定詞の語尾 r の欠落などの現象である¹⁾。

一方、近年の DVD (Digital Versatile Disc) の普及によって、ポルトガル語の字幕付きのブラジル映画によって、民衆言語を観察できるようになった。特に監督が、映画の登場人物にプロの俳優ではなく、現地の人を使っている場合、私たちは、あたかも現地で言語調査をしたかのような生きた現地訛りを採取できる。『Cidade de Deus (シティ・オブ・ゴッド)』のファヴェーラ住人たちの言語の観察がこの好例である。映画出演が初めてだという『Abril Despedaçado (ビハイ

ンド・ザ・サン)』のバカーを演じる街頭芸人であった子役もセルタネージョ発音を使っている。さらに、『Filhas do Vento (風の娘たち)』のように、プロの俳優に、現地訛りで語らせている作品もある。

こうしたDVD提供の資料に基づいて、民衆言語の概念図を描くと、第1図のようなになる。本稿では、この図の中から、北東部セルタン(奥地)を舞台としている『Eu, Tu, Eles (私の小さな楽園)』、『Abril Despedaçado (ビハインド・ザ・サン)』, 南東部リオと北東部のセルタンの口語の聞ける『Central do Brasil (セントラル・ステーション)』, そして南東部ミナスのカイピーラ語を表現している『Filhas do Vento (風の娘たち)』の4作品を取り上げ、サンパウロやリオのような都会の現象ではない、地方のセルタン住民, つまりセルタネージョの訛りを調査した。

筆者の仮説は、北東部と南東部のセルタンの訛りは、語尾のsやrの欠落が見られる点が共通しているが、他方、南東部の都会リオのファヴェーラでは、その欠落が希有である。その背景の1つには、カリオカ発音にポルトガルの影響を想定できること、もう1つは、文化の都リオの住人が、「正しい発音」を意図して、sやrの強調が発生しているためと推測できることである。

本稿ではまず、地方の口語の共通点と相違点の実態の観察を企図した。



第1図 現代ブラジル映画と民衆言語の概念図

1 『Eu, Tu, Eles (私の小さな楽園)』と『Central do Brasil (セントラル・ステーション)』

北東部のセルタンを舞台とする、アンドルーシャ・ワディントン監督の『Eu, Tu, Eles (私の小さな楽園)』(写真)は、2000年8月にブラジルで公開され、筆者はこれをサンパウロの映画館を見た。同年10月には東京国際映画祭の正式招待作品として日本でも上映された。夫婦役の夫オジアス(Osias)が名優リマ・ドゥアルテ(Lima Duarte)、妻が人気タレントのレジーナ・カゼー(Regina Casé)であり、彼らの演技は見事である。ジルベルト・ジルの音楽も美しい。過去、多くのブラジル映画が舞台にしてきた北東部セルタンの風景が、最高級の機材を駆使して実に美しく撮影されている。特に、朝夕の太陽光線の扱いが素晴らしい。映画のキーワードは北東部セルタンにおける「家父長社会」や「人種混交」である。ひとりの女性が小さな家に同居する夫以外の男たちの子を次々に産み、最後には、ひとりも自分の子を作れなかった夫が、肌の色が黒、碧眼、そして先住民との混血風という3人の子供たちの出生届をする、という物語である。

映画冒頭で、レジーナ・カゼー演ずる主役の女性ダルレーニ(Darlene)が母親に別れの挨拶をするセリフから始まる。

Mãe, **tô** indo, mãe. Quando o menino nascer, eu trago pra lhe **dá** uma bênção.

(母さん、行くわ。子供が生まれたら、祝福を与えてもらうために連れて帰るわ。)

太字の箇所は、民衆の言語によく見られる estar の活用 of estou の es が欠落し、tô となる場合である。もう1つは、動詞 dar の不定詞の語尾の r が欠落し、dá となっている。

以下の太字箇所は、本来 velho であるが、lh を発音せず、véio となる場合である。ゼジーヨ(Zezinho) 役のステーニオ・ガルシア(Stênio Garcia) がシナリオに従って発音している。さらに esses と、指示詞が複数なのに、cacareco véio と複数語尾 s が欠落している。

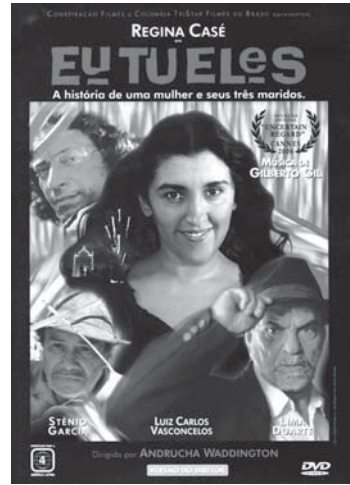
Casa nova bonita dessas, esses cacareco **véio** aí.

(きれいな新築の家に、そんな古いがらくたを。)

生まれた子供デイマス(Dimas) に対して、ダルレーニが Embora の em の欠落の Bora と用いる。これは、北東部の口語で頻繁に用いられる。

Bora dorme aqui um pouquinho. Dimas, vai.

(さあ、少し寝なさい。デイマス。)



DVD (ブラジル版) の表紙
Eu, Tu, Eles 2000年(104分)
監督: Andrucha Waddington

夫がハンモックに横たわって次のように述べるが、この **mermo** は **mesmo** から来ており、サンパウロなどの都会の口語では、**s** が欠落して、**memo** となる。

Eu não me levanto que deitado **mermo** eu cumpro meu serviço.

(<このハンモックが自分の持ち場だから>起き上がらずに横たわって<命令する>自分の仕事をするのだ。)

その場にいる黒人の使用人はダルレーニに対して次のように述べる表現で、複数形の語尾 **s** の欠落が見られる。

Mas também com uma mulher pra lhe fazer **as vontade**, até eu não levantava.

(夫のために喜んで仕事をする女房がいれば、おれも起き上がらないよ。)

このように、2000年公開の『**Eu, Tu, Eles** (私の小さな楽園)』は、台詞に基づいて俳優が地方の民衆言語を話す内容となっている。この点においては、1998年のベルリン国際映画祭でグランプリの金熊賞を獲得し、翌1999年にアカデミー賞の外国映画部門と主演女優賞にノミネートされた名作『**Central do Brasil** (セントラル・ステーション)』(写真)が同じである。主役のフェルナンダ・モンテネグロ演ずるドーラは、リオのセントラル駅の構内で路上の代筆屋を営んでいる。代筆屋の彼女のところに北東部出身の非識字者の女性と少年ジョズエが現れ、代筆を依頼する。

北東部出身の女が次のように手紙の文面を依頼する。その際、名詞の複数形の語尾 **s** を欠落させる。

Está querendo ir aí para Bom Jesus, passar **uns tempo**.

(そして<息子のジョズエが>そちらのボン・ジェズスへ行って、しばらく過ごしたいと望んでいる。)

これに対して、代筆屋のドーラがすかさず、訂正する。

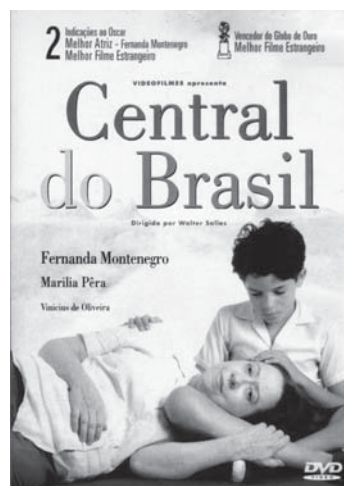
Tempos!

続いて、セルタネージョを演じる女性が以下のようにドーラを真似て訂正する。

Uns tempos, com você.

(しばらく<父親の>おまえと。)

映画は、リオで生まれ育った少年が、同じくリオで家族愛から見放されて孤独な生活を送っていた女から、母親として、



DVD (ブラジル版) の表紙

CENTRAL DO BRASIL

1998年 (112分)

監督 : Walter Salles

また、ちょっぴり恋人としての愛情を受ける、というメロドラマの設定になっている。この映画のヴァルテル・サーレス監督は、1995年にダニエラ・トーマスとの共同監督の『Terra Estrangeira (異国の地)』を制作しており、『Central do Brasil』のテーマは、異国を意識したうえで、ブラジル人のアイデンティティの根幹はどこにあるのか、との問いかけでもある。ともあれ、フェルナンダ・モンテネグロ演じる主役の女性のポルトガル語は、比較的丁寧なりオの口語であり、オーディションで採用した子役が演じるリオ生まれの少年と、北東部を旅するが、セルタネージョの民衆言語を強調する内容にはなっていない。

2 『Abril Despedaçado (ビハインド・ザ・サン)』と『Filhas do Vento (風の娘たち)』

北東部が舞台となっているヴァルテル・サーレス監督の『Abril Despedaçado (ビハインド・ザ・サン)』(写真)を紹介したい。筆者は、2005年2月に京都市内の映画館で見た。原案はヨーロッパのアルバニア人作家のものであるが、登場人物に映画初出演のセルタネージョを使うなど、民衆の言語を知る絶好の作品となっている。映画としては、月夜の風景が多いためか、神秘的な気分させてくれる、悲しく、美しく、また感動的な作品であり、『聖書』に現われるようなイスラムやアラブの世界を連想させる。グラウベル・ローシャ監督の作品『O Dragão da Maldade contra o Santo Guerreiro (聖戦士に対する悪しき竜)』(1969年)²⁾でも、「目には目を、歯には歯を」と匪賊が語る場面があるが、土地争いを巡る敵討の展開は壮絶である。しかしこの映画では、「おとぎ話」もテーマとなっていて、観客として、若干救われる。ともあれ、トーニョ(Tonho)役のロドリゴ・サントロはもちろん、サルスタアノ(Salustiano)役のルイス・カルロス・ヴァスコンセロスや父親役のジョゼ・ドゥモンらの演技が光っている。

民衆言語を知るには、この作品が映画初出演という、パクー(Pacu)という名をもらった子供役のラヴィ・ラモス・ラセルダ(Ravi Ramos Lacerda)の発音が役に立つ。

以下にこれらの例のいくつかを紹介する。

①名詞の複数形の場合、語尾のsが欠落(参照・太字箇所)：

vezesとなるべき語が、vez(太字)となっている。以下、almas, figuras, andarilhos, peixes, siris, navios, montanhas, mulas, canas, pernas, bois, festas, cobras, festejos grandes, mortos, vivos, vidas, pernas, sapos, matos, canas, passos, coisas direitosなど、同じ現象である。

パクー – Às **vez** ele manda um peso tão grande, que ninguém aguenta. E o sol daqui é tão quente, mas tão quente que às **vez** a cabeça da gente ferve que nem rapadura no tacho.

(ときどき彼(神様)は誰も耐えられない重すぎる試練を課す。しかもこの太陽はとても



DVD (ブラジル版) の表紙
Abril Despedaçado 2002 年
(95分) 監督: Walter Salles

熱く、製糖所の平鍋の中の糖蜜のように時に僕らの頭を煮えたぎらす。）

パター – Secou. Só ficou as **alma** mesmo.

((その川は) 干上がった。魂だけ残っている。)

パター – Sei não. Mas sei lê as **figura**.

((文字を読むことは) できない。でも絵は読める。)

母 – Ô menino! Não quero ver você metido com esses **andarilho**, não, viu?

(坊や。よそ者には近づかないで。分かった。)

パター – Ela veve [vive] no mar, mais os **peixe**, os **siri**, **navio**.

(彼女は魚やカニ、船と海に住んでいる。)

パター – Um dia, a sereia subiu pra ríba do mar e viu o juazeiro, as **vaca**, as **montanha**, o capim e, quando ela olhou pra cima da casa de rapadura viu o galhinho do pescoço pelado cantando pra ela. E foi vendo, e viu as **mula**, as **cana**, a bolandeira.

(ある日人魚は海の水面に出て、ナツメの木や牛や山や牧草を見た。彼女は製糖小屋の上を見たとき、首のはげた雄鶏が彼女にコケコッコと鳴いた。そしてほかに、雌ラバ、砂糖キビ、粉碎機を見た。)

パター – As **vez** eu alembro, as **vez** eu esqueço.

(ときどき思い出すが、ときには忘れる。)

トーニョ – A sereia. Tava montada numas **perna** de pau.

(人魚だ。竹馬に乗っていた。)

パター – A gente é que nem os **boi**: roda, roda e nunca sai do lugar.

(僕らは牛みたいだ。回って、回って、場所を離れてどこへも行けない。)

父 – Tu vai pras **feira** numa hora dessa, Tonho?

(こんな時に祭りへ行くのか、トーニョ。)

サルスチアノ – Olhe, é que nem duas **cobra** que eu vi um dia desse.

(なあ、昔俺が見た2匹のヘビ(の死闘)みたいだ。)

サルスチアノ – Tamo indo pra Ventura, pros **festejo grande** de Semana Santa.

(聖週間の大きな祝祭のために、ヴェントウーラへ行く。)

母 – Nessa casa, os **morto** é que comanda os **vivo**.
(この家は死者が生きている者を支配している。)

母 – A pior das **vida**, homem, é melhor do que morrer feito bicho.
(どん底の暮らしでも、殺されるよりましだわ。)

バター – A sereia não podia viver mais o menino, porque no lugar das **perna** ela tem rabo de peixe e a bichinha não podia caminhar. E começou a se enrolar com as cobras e brigar com os **sapo**. E se embrenhou no meio dos **mato**, por dentro das **cana** e, quando abriu o último feixe de cana chegou meio do mar e encontrou a sereia.
(人魚はこれ以上男の子と暮らせない。なぜなら、脚がなくて尾びれだから、歩けない。蛇に絡まり蛙と闘いはじめた。森を抜けて、砂糖キビ畑を通過して、最後の砂糖キビをかき分けると、海に出て、人魚に会った。)

父 – Tá seguindo os **passo** do outro?
(お前もあいつの後をついていくのか。)

父 – Faça isso direito, menino. Tu tem idade pra fazer as **coisa direito**.
(坊主、ちゃんとやれ。もう大きいんだから。)

②動詞の複数形の語尾の s が欠落 (参照・太字箇所、一部の和訳省略) :
※多くが、「さあ」と相手を促がす、掛け声である。

父 – Vambora! **Vamo**, Preto! **Vamo**, Cavaco! Bora, bora, bora! **Vamo! Vamo! Vamo**, Preto! Pega o viço, pega o viço! Bora, bora, bora!

父 – **Vamo**, meu boi! **Vamo**, Preto! **Vamo**, Cavaco! Bora, bora, bora! **Vamo! Vamo!** Bora, bora, bora! **Vamo! Vamo**, Cavaco! **Vamo**, meu boi!

父 – Leva essa cana logo, menino! Oxe! **Vamo**, Preto! **Vamo**, Cavaco! **Vamo**, meu boi! Vai, menino! Que moleza é essa?

父 – Bora, bora, bora, bora! **Vamo**, Preto! **Vamo**, Cavaco! Pega o viço, pega o viço! **Vamo**, meu boi!

父 – O menino, tá sonhando acordado? Bora, bora, bora! **Vamo**, meu boi! Traga essa!

トーニョ – **Vamo** bora.

サルスチアノ – **Tamo** indo pra Ventura, pros festejo grande de Semana Santa. (※前出)

サルスチアノ – **Vamo**, Alambique.

(さあ、アランビケへ行こう。)

③不定詞や人称代名詞の語尾の r が欠落 (参照・太字箇所) :

パクー – Tô tentando me **alemb**rá a história, mãe.

(母さん、物語を覚えようとしているんだ。)

父 – Seu Lourenço, o **sinhô** é homem de importância é o maior comerciante da cidade, e eu lhe tenho o devido respeito. Mas sou obrigado a dizer que o **sinhô** errou na conta.

(ロウレンソさん、あなたは重要人物で、町一番の商人だ。あなたを尊敬している。しかし、あなたは金額を間違っていると言わなければならない。)

パクー – Eu trouxe o livro. Pra tu me **alemb**rá a história.

(本を持ってきた。(あなたが物語を読んでくれて) 僕に物語を君が覚えさせるために。)

パクー – A sereia não podia viver mais o menino, porque no lugar das perna ela tem rabo de peixe e a bichinha não podia **camin**há. (※前出)

トーニョ – Tu lembra que eu te ensinei a **voá** com isso³⁾? Tu morria de medo.

(これ(ブランコ)で飛ぶことを俺がお前に教えた覚えてるか。お前は怖がった。)

パクー – Tonho hoje é tu que vai **avoá**.

(トーニョ、今日はお前が飛ぶ番だ。)

パクー – Eu não. Tu que não sabe **avoá**.

(俺は違う。飛び方を知らないのはお前のほうだ。)

④ estar の活用の es が欠落 (参照・太字箇所) :

パクー – **Tô** aqui tentando **alemb**rar uma história. Às vezes eu **alemb**ro.

(今、ある物語を思い出そうとしている。ときどき僕は覚える。)

フェレイラ家の祖父 – **Tá** concedida a trégua. A mesma que teu pai concedeu a meu neto.

(休戦を許可する。お前の親父がわしの孫に許可したと同じに。)

この、estar の活用の es が欠落は、ブラジルの日常の口語に広く出てくる表現である。この映

画でも多くみられるが、以下、この例の抽出を省略する。

以上の、北東部が舞台となっているヴァルテル・サーレス監督の『Abril Despedaçado (ビハインド・ザ・サン)』に対して、南東部ミナスジェライス（以下、ミナスと略す）の内陸部を描いたミナス生まれのジョエル・ジト・アラウージョ監督の『Filhas do vento (風の娘たち)』(写真)は、言語も、ミナス内陸部の庶民の訛りを丁寧に表現している。特に興味深いのは、ミナスの訛りがサンパウロ内陸部のカイピリズモに一致していることである。監督が黒人であるため、作品にはブラジル映画史上でもっとも多く黒人俳優が出演していると説明されているが、ブラジル内陸部のミナスと国際観光都市リオとのコントラストも描き、これをミネイロとカリオカの発音違いに反映させている点が、口語の実例を知る上で役に立つ。

観察の結果、南東部のセルタン住人(セルタネージョ)の言語の特徴は、北東部同様、次のような欠落が見られることが分かった。つまり、名詞の複数形の場合の語尾sの欠落、動詞の複数形の語尾sの欠落、不定詞や人称代名詞の語尾rの欠落、estarの活用 of esの欠落などである。

これらの欠落箇所(参照・太字箇所)を以下の引用から観察してみよう。

ゼー(父親) – Essas **coisa moderna** é tudo porcaria! Essas **bicicleta** num presta pra nada num segura os tranco dessa estrada, não. Bicicleta boa é que nem [= como] bezerro brabo. Tem que garrá nas **unha**.

(これらのモダンなものはすべて出来損ないだ。おまえさんのこれらの自転車はこの辺りの悪路のでこぼこには耐えられない。良い自転車は向う見ずな子牛のようだ。しっかり掴んで運転しなければならない。)

ゼー(父親) – Num [= Não]⁴⁾ fico na vadiação, oiano [olhando] passamento das **pessoa**. (人が通るのを眺めて、遊んで暮らしてなんかいない。)

ジュー(妹) – **Esse** livros num [= não] é de serventia nenhuma, não. Fica aí enrolada nesses **romance**, esquece de viver a vida.

(そんな本は何の役にも立たない。そんなロマンスに没頭して、生きることを忘れてしまう。)

ジュー(妹) – Nunca ouvi cê [= você] **falá** [= falar] de nenhum, ne desses **moço** de radionovela. **Tá** [= Está] sempre aí entocada nas **palavra**, nas paixão dos **outro**.

(姉さんがラジオドラマの男でない、(好きな)誰かのことを話すのを聞いたことがない。いつも他人の愛の言葉の中にくるまっている。)



DVD (ブラジル版) の表紙
Filhas do Vento 2004年(85分)
監督: Joel Zito Araújo

シーダ (姉) – **Mi**ó [= Melhor]⁵⁾ **secá** [= secar] rapidim [= repidinho]⁶⁾ **essa suas idéia**.
(そんな不謹慎な考えはすぐにやめたほうが良いわ。)

青 年 – Eu num [= não] queria **tomá** [= tomar] essas **liberdade** com o senhor, não... mas, quando [= quando]⁷⁾ o coração da gente **tá** [= está] apertano [= apertando] ... a gente num [= não] pode **envergonhá** [= envergonhar] , não, **shinhô** [= senhor] , né, Seu Zé?
(僕はあなたに無礼をすることは望まない。でも、僕の心が苦悩しているとき、はにかんでいるわけにはいかない。ゼーさん、そうでしょ。)

シーダ (姉) – Qualquer coisa, bota a culpa nas **novela**.
(どんなこともドラマのせいにするのね。)

ジュー (妹) – Albertinho, conta pra mim aquela novelinha... da mãe que larga as **fia** [= filha] pra corrê [= correr] atrás do circo.
(アルベルチーニョ、私にあの話をして 娘を残してサーカスを追いかけて行ったあの母親の話。)

以上のように『Filhas do vento (風の娘たち)』の台詞によって観察できるミナスのカイピリズモについては、サンパウロの事例を取りあげて、別の機会に詳しく論じる予定である。本稿では、北東部セルタネージョの民衆言語同様に、語尾の s や r の欠落のような幾つかの共通点が存在することを強調するに止めておきたい。ミナスとサンパウロの民衆の口語が一致する背景は、18世紀のゴールドラッシュの時代にサンパウロの奥地探検隊の人々がミナスで活動したためである。冒頭の第1図で示したように、人の移動が言語の変化に影響を与えたと指摘できる。

おわりに

以上本稿では、DVD 提供の資料に基づいて、『Eu, Tu, Eles (私の小さな楽園)』、『Abril Despedaçado (ビハインド・ザ・サン)』、『Central do Brasil (セントラル・ステーション)』、『Filhas do Vento (風の娘たち)』の4作品を取り上げ、サンパウロやリオのような都会の現象ではない、北東部と南東部奥地(セルタン)の住民、つまりセルタネージョの訛りを調査した。

その結果、北東部ミナスと南東部のセルタン住人(セルタネージョ)の言語の特徴は、次のような欠落が見られることが分かった。

- ①名詞の複数形の場合、語尾の s が欠落
- ②動詞の複数形の語尾の s が欠落
- ③不定詞や人称代名詞の語尾の r が欠落
- ④動詞 estar の活用の es が欠落

他方、フェルナンド・メイレーレス監督の『Cidade de Deus (シティ・オブ・ゴッド)』(写真)

の台詞を観察すると、南東部の都会リオのファヴェーラでは、名詞の複数形や動詞の複数形語尾の s の欠落や不定詞や人称代名詞語尾の r の欠落が見られない。その背景の 1 つには、カリオカ発音にポルトガルの影響を想定できること、もう 1 つは、文化の都リオの住人が、「正しい発音」を意図して、s や r の強調が発生しているためと推測できることである。しかしこの「正しい」という判断については、文化的・社会的統制を助長する危険性を孕んでいる。筆者の立場は、「正しい発音」を意図する住人がいることを認めたとうえで、「検閲」のような統制を否定し、言語の自然な変化を重視するものである。

本稿では、地方の口語の共通点と相違点の実態の観察を企図した。今後は、リオのエリート層や低所得者層共同体住人を対象に、彼らの言語表現やブラジル人としてのアイデンティティなどの調査を進める予定である。



DVD (ブラジル版) の表紙
Cidade de Deus 2002年(135分)
 監督: Fernando Meirelles

注

- 1) 「ルラ大統領のポルトガル語—スピーチに基づく批判と評価の考察」と題して、2009年度日本ポルトガル・ブラジル学会年次大会(2009年10月24日(土),東京外国語大学事務棟2階大会議室)において、ルラのスピーチの、舌のもつれ、地方の訛り、文法の間違いなどの特徴を筆者が指摘した。
- 2) 北東部が舞台の作品は、『野生の男』という題で、1950年代に日本で劇場公開されたりマ・バレット監督の『匪賊(カンガセイロ)』(1952年)や「新しい映画」の開始を告げたネルソン・ペレイラ・ドス・サントス監督の『乾いた人生』(1963年)、グラウベル・ローシャ監督の『太陽の地の神と悪魔』(1964年)、などが有名である。
- 3) それ、の意味だが、ブラジルの口語では、しばしば、これ(isto)とそれ(isso)が混同して用いられる。
- 4) 鼻母音を発音しないのは、カイピリズムの1つである。
- 5) “lh”の発音をしない現象はセルタネージョにもみられる。カイピリズムの特徴でもある。
- 6) rápidoがrapidinhoとならず、rapidimとなる語尾変化は、カイピリズムの特徴である。
- 7) “ndo”が“no”となるのもカイピリズムである。

参考文献

金七紀男・住田育法・高橋都彦・富野幹雄(共著)
 2000 『ブラジル研究入門』, 晃洋書房。

住田育法

2004 「近現代ブラジルにおける政治と都市問題—特に新旧首都の役割を中心として」南山大学ラ

- テンアメリカ研究センター『ラテンアメリカの諸相と展望』, 行路社, 300-322 頁。
- 2006 「ブラジルの都市形成と土地占有の歴史—旧都リオデジャネイロを中心として—」平成 16～17 年度科学研究費補助金（基盤研究（C））研究成果報告書『現代ブラジルにおける都市問題と政治の役割』研究代表者 住田育法, 京都外国語大学国際言語平和研究所, 47-62 頁。
- 2007 「ブラジル北東部奥地における民衆とエリートの構図」『京都外国語大学研究論叢』第 LXIX 号, 95-113 頁。

住田育法（監修）／萩原八郎・田所清克・山崎圭一（共編）

- 2009 『ブラジルの都市問題—貧困と格差を越えて』, 春風社。

Cavalcanti, Nireu

- 2003 *O Rio de Janeiro Setecentista: a vida e a construção da invasão francesa até a chegada da corte. Rio de Janeiro*, Jorge Zahar Editor.

Ortriwano, Gisela Swetlana

2002-2003

“Radiojornalismo no Brasil: fragmentos de história.”In *Revista USP/ 80 anos de rádio*. São Paulo:USP, dezembro/janeiro/fevereiro.

Stein, Stanley J.

- 1985 *Vassouras A Brazilian Coffee County, 1850-1900: The Roles of Planter and Slave in a Plantation Society*. Harvard Univ. Press-USA, New material copyright.

Valladares, Licia do Prado

- 2005 *A invenção da favela: Do mito de origem a favela.com*. Rio de Janeiro.

Vianna, Hermano

- 1995 *O Mistério do Samba*. Rio de Janeiro: Jorge Zahar Ed.:Ed. UFRJ.

Zweig, Stefan (Tradução de Michahelles, Kristina)

- 2006 *Brasil, um país do futuro*. Porto Alegre, RS: L&PM.

DVD (Digital Versatile Disc) ブラジル版

Abril Despedaçado

- 2002 年 (95 分) 監督 : Walter Salles

Central do Brasil

- 1998 年 (112 分) 監督 : Walter Salles

Cidade de Deus

- 2002 年 (135 分) 監督 : Fernando Meirelles

Eu, Tu, Eles

2000年（104分） 監督：Andrucha Waddington

Filhas do Vento

2004年（85分） 監督：Joel Zito Araújo

